

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人神戸大学

1 全体評価

神戸大学は、「学理と実際の調和」を理念とし、社会科学分野・理科系諸分野双方に強みを持つ特色を発展させ、「先端研究・文理融合研究で輝く卓越研究大学」への進化を目指している。第3期中期目標期間においては、①先端研究の臨場感のなかで創造性と学識を深め、地球的課題を解決するために先導的役割を担う人材を輩出すること、②文・理の枠にとらわれない先端研究を推進し、他機関とも連携して、新たな学術領域を開拓・展開すること、③海外大学と重層的な交流を図り、世界から優秀な人材が集まり、飛び出していくハブ・キャンパスとしての機能を高めること、④これらの教育研究を社会と協働して推進し、社会還元することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、乳がん健診を革新する画像診断システムのプロトタイプ機の開発に成功し、神戸大学発ベンチャー企業によって社会実装化を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- これまでの神戸医療産業都市における産学官連携の取組が評価され、「地方大学・地域産業創生交付金」において「神戸未来医療構想」が採択されており、神戸医療産業都市において、医療機器開発のエコシステムを開発するため医学部附属病院国際がん医療・研究センター（ICCRC）や統合型医療機器研究開発・創出拠点（MeDIP）に産学官連携による実証拠点を整備し、産学官医連携によるオープンイノベーションを創出することを目指している。（ユニット「イノベーション創出に向けた研究の拡充」に関する取組）
- 認知症予防プロジェクトにおいて、兵庫県・丹波市と健康寿命延伸に関する協定を締結し、大学・兵庫県・丹波市が共同し、丹波市民に対して運動・認知機能に関する住民調査を行い、既存データと突合して長期観察を行う丹波コホートプログラムを開始している。（ユニット「イノベーション創出に向けた研究の拡充」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成30年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 政策的・専門的業務に従事する高度専門職の確立

「政策研究職員」制度において、長期的な視点で職員を配置するとともに、高度な専門知識で適切に業務を遂行できる環境を整備しており、政策研究職員が中心となって各部署のミッションの達成に取り組むことで、IR分野においてはエビデンスに基づく計画立案体制が構築され、留学生の受入・派遣人数の増加等につながっている。令和元年度には、職位を増やすことで政策研究職員としての長期的なキャリア構築ができる体制を整備している。

○ AIによる相談窓口の設置

授業料・入学料免除、奨学金に関する質問に対応するため、AIによる相談窓口を設置したことで、問合せへの対応時間を約46時間削減できたことに加えて、質問内容を電子データとして蓄積することが可能となっている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成30年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 土地の有効活用

楠団地（病院・医学部地区）において、地域における医療体制の充実と高度な地域医療サービスを適切に提供していくために、地区計画制度を活用し容積率の上限を緩和する手続を進め、神戸市における容積率緩和の条例改正につなげた結果、資金を投じず新たに14,000㎡相当の土地を取得するのと同様の効果を得られることとなり、狭隘化によるスペースの課題を解決し、多様な医療ニーズに対応していくことが可能となっている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 「マイクロ波マンモグラフィ」の開発

従来の技術では画像化が不可能な高濃度乳房の腫瘍も診断可能となる世界初の画像診断システム『マイクロ波マンモグラフィ』のプロトタイプ機の開発に成功している。これは、従来のX線マンモグラフィが持つ、撮影時の痛みやX線による人体への影響がないだけでなく、腫瘍の見落としもない革新的な医療機器であり、治験・装置製造・世界展開を担う大学発ベンチャー「株式会社Integral Geometry Science」により社会実装を加速させている。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 臨床研究の推進

令和元年度日本医療研究開発機構 (AMED) 「次世代医療機器連携拠点整備等事業」に採択され、臨床現場において医療機器開発に携わる企業研究開発者や工学研究者のための教育研修プログラムや、ニーズ情報と開発品シーズ情報を一元管理する体制整備を行うなど、臨床研究を推進している。

(診療面)

○ 医療安全管理体制の強化

「総合的質管理委員会」において、病院機能評価受講準備ワーキンググループを立ち上げ、説明書・同意書の統一様式を定めて現行様式を順次変更するなど、質改善を進めるとともに、医療の質・安全管理部の医師1名を専任から専従とし、外国人患者への医療安全管理体制を整備するため、医療安全管理委員会にインターナショナル・メディカル・コミュニケーションセンター長を新たに加え、さらに、臨床研究に関する安全管理担当者を新たに加えるなど、医療安全管理体制を強化している。

(運営面)

○ 地域医療機関のベンチマーク分析等を通じた地域医療貢献

副病院長を室長とした情報分析推進室を設置し、関係病院のうち43病院からDPCデータの提供を受け、各種オープンデータと合わせて地域における医療提供状況の可視化、及び臨床指標のベンチマーク分析等を行うことにより、県内のシンクタンク機能としての役割を果たし、関係病院のみならず県内における医療政策及び病院経営分析に大きく貢献している。